

子どもたちが安心して暮らせる居場所を地域のみんなで作ろう

2018年11月15日、2018年度第1回福祉拡大学習会が福岡市で開催され、125人が参加しました。講師は、グリーンコープが「子どもの居場所」づくりをはじめきつかけとなった、スクールソーシャルワーカーの梶谷優子さん。今の子どもたちが置かれている状況、これからどのように関わってほしいのかなどについて話を聞きました。



講師 梶谷 優子 さん
福岡市教育委員会
*スクールソーシャルワーカー

※学校での困りごとを抱える児童・生徒と家族を支えるための専門職。関係機関と連携し、支援を必要とする子ども・家庭の支援を行う

生きづらい環境にある子どもたち

2018年度から、福岡市では中学校区に1人、スクールソーシャルワーカーが配置されるようになりまし。子どもたちが安心して暮らせるように、問題を早期発見、早期対応するため、小学生の頃から見守り、低学年のうちにはしっかりと関係を築きます。

家庭が厳しい経済状態にある子どもは、家でご飯を食べることができないことが多く、給食をとってたくさん食べます。給食で命をつないでいる子どもたちも少なくありません。そのため、週末や長期の休暇で給食がない時期、先生たちは本当に心配しています。

貧困状態があると、夢や希望を持つても実現できないことが多く、自分が傷つくのが嫌で、「夢を持たない」、「希望を持たない」という子どもにもなりがちです。

今は洋服もリサイクルショップで安く買えますし、家庭が困窮状態であることが分かると親が悪いと言われてしまうと思つて、表に出さない子どもたちも多いようです。そのため、子ども本人からは課題が見えづらいという問題が生じます。

貧困は決して子どものせいではありませんが、保護者のせいとも言えず、子どもを育てにくい社会環境も要因の一つと言われています。保護者自身も

「かわいさ」を口にする子どもたち

子どもの頃からネグレクト(育児放棄)の環境で育った場合や、親から虐待された経験がある場合は、どうやって子どもを育てたらいいのか分からない、お金の使い方も分からないなど、子育てが難しいこともあります。

子どもたちを取り巻く環境には、貧困やいじめ、虐待などたくさん課題があります。困りごとがある子どもは、自分の気持ちを表現して口に出すことや、対面での会話や苦しいことが多いようです。誰かに話したい、聞いて欲しい、という気持ちはあるのですが、誰に話していいのか分からないという子どもたちもいます。

グリーンコープの「子どもの居場所」づくり

経済的に厳しい社会状況が続く中、今から5年前、グリーンコープは、福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカーの梶谷優子さんと福岡市社会福祉協議会からの呼びかけで、困難な状況にある子どもたちへの取り組みを開始しました。

全国的に「子ども食堂」の取り組みが広がる中、グリーンコープは、食事の提供だけを目的とする「子ども食堂」ではなく、やって来た子どもたちを無条件に受け入れ、子どもが安心・安全に過ごすことができる「居場所」が求められていると考え、実現に向けて検討を始めました。

2015年に「げんきもりもりプロジェクト」を設置し、「子どもの居場所」づくりの準備を開始しました。まずは地域で運営されている2カ所の子どもの居場所の運営に関わりました。また、福岡市内の中学校で毎週1回朝食支援の取り組みが始まり、グリーンコープから食材の提供を行うようになりました。その後も地域で運営されている子どもの居場所のサポートや小中学校の朝食支援を行っています。

現在、グリーンコープが直接運営している「子どもの居場所」は3カ所あります。グリーンコープが地域や学校と出会い、お互いの取り組みに共感し合い、一緒に課題解決に向けた地域づくりをすすめていこうと手を取り合える関係が広がってきています。

グリーンコープが直接運営する「子どもの居場所」

- 日明けげんきもりもりハウス 北九州市
- 片縄げんきもりもりハウス 那珂川市
- 名島げんきもりもりハウス(準備中) 福岡市
- 別保の森 もりもりげんき館 大分市



熱心に話を聞く組合員たち

えて「さびしい」と言います。さびしいので、SNSでコミュニケーションに走ってしまい、犯罪に巻き込まれることも少なくありません。家に居場所がない、家に帰っても自分のご飯がない、家族がいない、さびしいという理由から非行に走る子どもがとても多いのが現状です。先生たちは、何度も説教するより一度ご飯を食べに連れて行くと、子どもたち

地域の人々とつながるグリーンコープの朝食支援

福岡市でも、ご飯が食べられない子どもたちは少なくありません。グリーンコープから食材を提供してもらい、学校での朝食のフードサポートが始まりました。朝食を食べると脳が活性化するので、授業もしっかり受けることができますし、体力もついて体育も元気に参加できます。この支援には地域の方も参加され、子どもたちだけでなく先生との交流の場にもなっています。子どもの欠食率も減り、朝食を食べ終えて授業に向かうとき、地域の方に「いつてらっしゃい」と言ってもらえることが嬉しいと言う子どもも多くいます。

福岡市でも、ご飯が食べられない子どもたちは少なくありません。グリーンコープから食材を提供してもらい、学校での朝食のフードサポートが始まりました。朝食を食べると脳が活性化するので、授業もしっかり受けることができますし、体力もついて体育も元気に参加できます。この支援には地域の方も参加され、子どもたちだけでなく先生との交流の場にもなっています。子どもの欠食率も減り、朝食を食べ終えて授業に向かうとき、地域の方に「いつてらっしゃい」と言ってもらえることが嬉しいと言う子どもも多くいます。

子どもたちが心を許せる居場所を作ろう

大事なことは、子どもたちが安心して過ごせる居場所があることです。そこにいる大人たちが自分たちのことを考えてくれている、と分かってくれて子どもたちは安心して暮らすようになります。定例で開いていて、子どもたちが行きたい時に、行ける場所に信頼できる大人がいて、何か食べることで、困ったとか助けてと言え環境が重要だと思えます。

私たち大人は、一人では何もできませんが、皆で力を合わせれば支援や居場所づくりができます。子どもたちも自分たちのことを考えてくれていて大人がたくさんいると思えば、笑顔になります。すべては子どもたちのためという視点で、大人としてできることを取り組んでいきたいと思います。